

機関番号：43502

研究種目：基盤研究 C

研究期間：2007～2009

課題番号：19530176

研究課題名 (和文) 初期近代グレート・ブリテンにおける「制度化された信用」の形成と諸問
 研究課題名 (英文) The making of 'institutional credit' in early modern Britain and its issues.

研究代表者 伊藤 誠一郎

(ITO SEIICHIRO)

大月短期大学・経済科・教授

研究者番号：20255582

研究成果の概要 (和文)：17 世紀イングランドの信用制度についての議論を、経済的要因よりは、むしろ評判や信頼性など社会・道徳的要因が重要な役割を果たしていたのではないかと、という問題意識のもと、この時期無数にあった銀行案を中心に調査を進めた。2005 年にオーストラリア経済思想史学会で報告した、名誉革命期までの 17 世紀の諸銀行案についての論考を改良し、英文雑誌に投稿し、2011 年に *European Journal of the History of Economic Thought* に掲載される。また、土地登記と信用の確立についての論考、信用制度と利子率をめぐる論争についての論考などをまとめ、ヨーロッパおよびオーストラリアの学会で報告し、その後英文専門雑誌への投稿にむけて改良した。

研究成果の概要 (英文)：Surveying the numberless bank proposals, I examined the discussions on the credit system of England in the seventeenth century from the perspectives of the social and moral factors such as reputation and reliability rather than the economic factors. I improved a study paper on the diverse bank-proposals during 1600 and 1688, which had been presented at the conference for the history of economic society of Australia in 2005, and contributed it to academic journals. It is published in *European Journal of the History of Economic Thought* in 2011. I also wrote several drafts: one of them is on land-registration and the foundation of credit and another on the credit system and the controversy on interest rates. I presented those papers at the conferences in Europe and Australia and improved particularly two above mentioned papers for contributing to academic journals in English.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	800,000	240,000	1,040,000
2008 年度	500,000	150,000	650,000
2009 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,800,000	540,000	2,340,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経済学 経済学説・経済思想

キーワード：信用 銀行 土地銀行 17・18 世紀 イングランド

1. 研究開始当初の背景

2003 年度から 2005 年度まで受けていた科学研究費若手研究(17-18 世紀イギリスにおける金融システムの成立と「信頼」のシス

テム)では、当初 1690 年代の土地銀行に関する論争をめぐる議論を、信頼など、より社会・道徳的な視点からとらえなおそうと研究を開始したが、それをすすめるなかで、この

問題が 17 世紀の初頭から無数に提出されていたさまざまなタイプの銀行設立案において多く議論されていたことがわかり、なかでも、慈善、担保、利子といった論点为中心となっていたことがわかった。そこで、2005 年にまず、慈善銀行や抵当銀行の設立案をめぐる論争についてまとめオーストラリア経済思想史学会で報告し、その改良を本研究期間におこない、その他の論点についても本研究でさらに研究を進めていくこととした。

2. 研究の目的

近代的金融制度の誕生を告げるひとつのメルクマールとなる 1694 年のイングランド銀行の設立、さらにはそれに先立つ慈善銀行、抵当銀行、土地銀行など多くの銀行設立をめぐる論争において議論された問題は、その後の銀行制度、証券市場の誕生・発展においてもその本質にある脆弱性という点においてはなにも変わらなかったのではないか。そしてその本質とは必ずしも純粋に経済の論理にもとづくものではなく、むしろ社会・道徳的なものだったのではないか。こうした問題意識のもと、とくに 17 世紀のグレート・ブリテンの信用という問題を、銀行設立案や経済文献における銀行論を中心にみていく。

3. 研究の方法

17 世紀後半から末にかけての英国におけるさまざまな銀行設立案を中心に、「制度化された信用」の確立に向けた論争の過程、争点、内容に焦点をあてて検討していく。その際、慈善銀行、抵当銀行、土地登記、利子率などの論点に注目する。一次資料としては、ゴールドスミス・クレス・ライブラリー蔵書にある諸銀行案をマイクロフィルムよりコピーしたり、またネット上からダウンロードする。また、大英図書館、ロンドン大学図書館、スコットランド国立図書館などが所蔵している手稿類を現地におもむいて読み込み、パソコンに打ち込むといった形で収集。二次文献もあわせて調査し、英文原稿にし、ヨーロッパ経済思想史学会やオーストラリア経済思想史学会などで報告。それらを逐次改良し、英語のネイティブチェックを経て英文学術専門誌に投稿、またレフェリーからの要求に応じるために更なる改良をし、英文での公刊をめざす。

4. 研究成果

英文雑誌投稿を目指した論文のうち 'The making of institutional credit in England, 1600-1688' は *European Journal of History of Economic Thought* の 2011 年 8 月号への掲載が決まった。それ以外については、研究の進展の中で、名誉革命以前の時期のイン

グランドの信用についての議論をする際、提案される銀行が貸付をするときに引き受ける担保の質を向上することを目的とした不動産登記についての議論が不可分であったことを見出し、このことをテーマとした論文を書き、平成 20 年にヨーロッパ経済思想史学会で報告した。その後平成 23 年に歴史専門の英文学術雑誌に投稿し、最近その査読の結果が届き、内容の質については高い評価を受けたものの、テーマがかなり特殊なので、より近い分野のある特定の雑誌に投稿するようすすめられ、現在はそれに向け改良を始めたところ。また、1668 年ころに起きた利子率をめぐる論争も、実は信用制度の議論と密接にかかわっていることを見出し、このことを平成 20 年にオーストラリア経済思想史学会で報告した。その後改良し平成 22 年にヨーロッパ経済思想史学会で報告し、現在英文学術誌への投稿にむけて改良中。また、名誉革命後の土地銀行論争の研究も、上記の土地登記、利子率に関する議論を踏まえてさらに進展させ、22 年 3 月には国内の研究会で、その成果の一部を報告した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 1 件)

- ① Seiichiro Ito, 'The making of institutional credit in England, 1600-1688', *European Journal of the History of Economic Thought*, vol.18:3, 2011, August.(査読あり)

[学会発表] (計 7 件)

- ① Seiichiro Ito, 'What was the issue in the land-bank controversy?', リカードウ研究会 (第 19 回)、明治大学、2010 年 3 月 12 日。
- ② 伊藤誠一郎 『貿易の嫉妬』にみるリアリズム - 経済ナショナリズムと国家理性論の再検討 - 、社会思想史学会全国大会、神戸大学、2009 年 10 月 31 日。
- ③ Seiichiro Ito, 'Law Reform, Registration and Credit in Seventeenth century England', 22th Conference of the History of Economic Thought Society of Australia, the Fremantle Campus of

The University of Notre Dame,
Fremantle, Australia, 2009年7月16
日。

- ④ Seiichiro Ito, 'Charles Davenant on
Richelieu', 2nd Joint Conference
ESHET-JSHET, Kyoto University,
Japan, 2009年3月24日。
- ⑤ Seiichiro Ito, 'Interest controversy in
its context', 21th Conference of the
History of Economic Thought Society
of Australia, University of Western
Sydney, Sydney, Australia, 2008年
7月10日。
- ⑥ Seiichiro Ito, 'Registration and credit
in England 1660-1688', 12th Annual
Conference of the European Society
for the History of Economic Thought,
University of Economics, Prague,
Czech Republic, 2008年5月17日。
- ⑦ Seiichiro Ito, 'Continuity and
discontinuity-the early stage of the
land-bank controversy', 11th Annual
Conference of the European Society
for the History of Economic Thought,
Louis Pasteur University, Strasbourg,
France, 2007年7月。

[図書] (計2件)

- ① [共訳]I. ホント、田中秀夫監訳『貿易
の嫉妬』昭和堂、pp. 84-114(伊藤担当
箇所)、2009年5月。
- ② 伊藤誠一郎「レトリックを超えて-近代
初期イングランドの古典修辞学と政治
算術-」田中秀夫編『啓蒙のエピステー
マーと経済学の生誕』京都大学学術出
版会、pp. 99-128、2008年11月。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤 誠一郎 (ITO SEIICHIRO)
大月短期大学・経済科・教授

研究者番号 : 20255582

(2) 研究分担者
()

研究者番号 :

(3) 連携研究者
()

研究者番号 :